

令和元年度 学校評価について

学校法人 千成学園
幼保連携型認定こども園
千成幼稚園

本園では自園での教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にすることを目的として、学校評価を実施、公表しています。

本園の教育・保育について

教育理念

人としての基礎を培う大切な幼児期だからこそ、子どもたちが子どもらしくのびのびと生活するために千成幼稚園では広大な自然環境のなかで外遊びの充実を図り、子どもたちの生きる力の基礎を育みます。近年、子どもたちの遊び場、自然の中で遊ぶ場所がどんどん限られてきています。幼児期こそ大自然の中で木々や動植物と触れ、感性豊かに様々なことを感じ、遊びを通して人とのかかわりを育むことが重要であると認識しています。

教育方針

幼稚園は子どもが主役の場所です。一人ひとりのありのままを受け止め、自分を好きな子であってほしいと思っています。自己を発揮できるようになると友だちの心に気づくようになります。集団生活の中で友だちや先生と遊びを通してたくさんの経験を積み重ね、心と体が育っていきます。様々な場面で感動や発見に出会い、子どもの心が動く瞬間があります。その瞬間を大切に捉え、好奇心や探求心が育つように一人ひとりの子どもの心によりそった教育を目指しています。四季の移り変わりや伝統行事など年間を通して子どもたちに「本物」にふれる体験を保育の中に積極的に取り入れ、自然環境の素晴らしさ、地域の人たちとのふれあい、日本古来の伝統文化に実際にふれること、体験をすること。子どもたちが五感で感じるものが育ちに大切であると考えています。一つひとつの経験の積み重ねが、一人ひとりの生きる力の源になります。集団生活だからこそ友だちと共に達成感を味わったり、協力したりすることで充実した日々を送ってほしいと願っています。

教育目標

健康なこども

- ・心身共に大きく成長する大切な時期です。
外遊びを中心に自然に囲まれた広い園庭でのびのびと遊び、
元気な心・丈夫な身体の基礎を築きます。

きまりを守れるこども

- ・集団生活の中で相手を思いやる心、
協力する心が育っていきます。
その中で自ら考えて判断する力を育んでいます。

ともだちと遊べるこども

- ・友だちの想いを大切に、遊びの中でイメージを共有したり、
自己を発揮して自分の気持ちを伝え共感する喜びを大切にしています。

千成幼稚園の一年を振り返り

0歳児から5歳児までの教育・保育を行う「幼保連携型認定こども園 千成幼稚園」へ移行し、1年目を終えました。今年度は年度途中の10月より保育料の無償化が行われ、給食費や預かり保育のおやつについて、またICT業務についても保護者へご理解を頂くとともに、園として各自治体と連携をはかり、運営に努めて参りました。

昨年度は県外へ職員で研修へ赴き学ぶ機会を多く設けてきました。その中で幼児教育の重要性と現在の社会を取り巻く諸問題を踏まえ、今後について幼児教育をどのように展開していくべきなのかを話し合いました。職員の自己点検・自己評価の中で未だ課題や今後への取り組みに対し園全体の質の向上へつながるように努めていく必要性を話し合いました。

今後について

コロナウィルス感染拡大防止のため休園時には、ICTを活用して園から速やかに保護者へ情報提供や園からのメッセージを配信していくことに努め、各家庭の室内で遊べるものを職員で考え、カルタやカードをプレゼントしながら自宅を回りました。

休園が長期化された影響もあり、各家庭へ動画配信や往復ハガキを使ってお互いのメッセージのやり取りもしました。

休園中、職員はそれぞれの幼児教育研究テーマを定め、学んだことをポスター発表という形をとりました。その内容を園内で共有をしました。

今後は地域の方々、近隣小学校の先生方へも幼児教育の取り組みを知っていただくと共に保幼小連携へ向けて共有していきたいと考えています。

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる大切な時期であることを念頭に置き、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、園と家庭と地域とが信頼し合って、子ども達一人ひとりの育ちを保証する地域であるとともに、引き続き子どものための環境をつくっていきたいと考えています。

学校関係者評価委員の評価

学校関係者評価委員より

園での保育、保護者、子どもの姿を見させてもらった。

保護者との関係についても、アンケートの結果等、手紙などで結果を伝えていたがこれまでのように相互の連絡をはかり、「園のあり方」「教育・保育のあり方」を追求して行って欲しいとのご意見をいただいた。

コロナウィルスの影響による、地域の子どもたちの状況について心配だという声が多かった。

- ・外に出たり人に接する機会が少なくなったこの三か月間、子どもたちの成長への影響があるのではないかと心配である。
- ・大切なのは登園、登校する地域の子どもたちの様子を、地域の中でも気を付けてみていくこと。
- ・会議や打ち合わせなど3密を避けるため学校や園など施設と保護者が連携を取りにくくなっている。地域の中で工夫や声掛けは必要と思うので配慮していく。
- ・地域の子どもが不安定な社会状況の中、一人になったり不安定にならないように地域と、保・幼・小の連携をより進めていくことが大切である。

市内の民生委員にも限界があり、地域に人が足りないと感じる。千成自治会と協力、連携を一年間やってもらった。引き続き協力体制を構築していきたい。特にふれあい食堂や駄菓子屋、カフェなど、自治会内へ告知を早めにしていただきたい。

幼保連携型認定こども園となり、大変な仕事量となっているが、それぞれの子どもや各家庭にきちんと向き合い取り組んでいる。指摘すべき事項はなく、良好な運営がされている。

今後も地域と連携を密にはかり地域を良くして頂きたい」と評価された。

財政状況 公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

以上

令和2年6月1日

学校評価検討会議出席者

千成自治会 自治会長

千成自治会 事務局長

地域住民の方

千成学園 評議員

理事長

園長